

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, Aug. 30th, 1956. No. 294.

關西大學學報

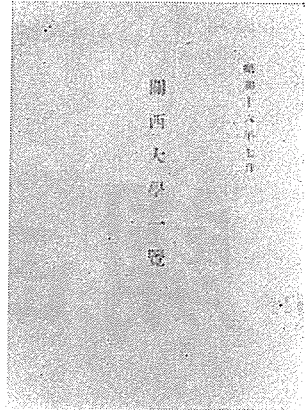
昭和31年8月 第294号

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十一年八月三十日発行（毎月一回三十日発行）
通巻第二九四号



緑蔭に葵咲く（千里山第二学舎前）

關西大學學報局



昭和 16 年の大学一覽

「大学一覽」の変貌

羽野 堅 二

で興味あるが、ここでは要点を引用しつつ論題を進めることにする。

「四ポンドもある電話帳式のオムニバスの大学一覽は、過去のものである。……過去十年間に大学一覽は、外観といい、内容といい、効果性といい、驚くべき改良が行われて来た。優れた一覽を出していない大学では、その欠点を見つけて改良しようとしているものが多い」と、前ケント州立大学 P R 部長兼ジャーナリズム教授で現在フォード自動車会社教育部長のマイクル・ラドックが、昨年七月発表した「大学一覽最近の傾向」(Michael Radock: Recent Trends In College Catalogs)の中でこう述べている(“College Public Relations Quarterly,” Volume 6, Number 4, July, 1955に掲載。本論文はラドックがミシガン州にある約二〇〇の高等学校と、また全国三〇〇の単科及総合諸大学とに質問書を出して得た統計調査の結果について論評したもの

アメリカの「大学一覽」は、初め “University Bulletin” と称され、“University Catalog(大学一覽)”として大学全般についての説明と大学各学部及び学科のそれぞれについての記述とから成り、例えば大学の沿革、大学暦(Academic Calendar)、大学の機構、学則、スタッフの名簿などから各学部の附則、教授科目等を記し、更に在学生の名簿まで附けていたものである。わが国でも戦前まではこの型が用いられ、「何々帝国大学一覽」がそのサンプルのようなものであった。本学でも昭和十六年に刊行された「関西大学一覽」はこの種類で、ただ在学生名簿が附されていない。今日でも国立大学ではこれを踏襲しているところもある(例えば「東京大学一覽」昭和二十九年刊参照)。この型の「大学一覽」は、普通「何々年鑑」と称される年鑑形式のもので、アメリカでは明かに“Annual

Catalogue”と名付けたものもある。だから、州立大学の中には大学理事者が監督する州知事宛の報告文をつけて一種の業務報告のようにしたものもあれば、またニューヨーク大学の法学部一覽のごとく、法学部長が大学長宛の報告文を附して一カ年間の教育業務を記述している形になっているものもある。

これらがラドックのいう「四ポンドもあるオムニバスの大学一覽」であつたが、最近といつても約六年前以前から「特殊な人々向けに作成された」と特別な一覽を必要とすることが認められて来た。ハーヴァード、コロンビア、カリフォルニアなどは逸早くこの気運を察してか、前記の型を蟬脱して、主要各学部ごとの一覽を出していたが、シカゴ、エール、ワシントンなどは前者より遙かに遅れている。各学部の分冊形式を採つても、なお乗合馬車的一覽の中に含まれていた各学部の記述を分冊としただけの、オハイオ、ミズリー等のようなものに比べると、ハーヴァード、コロンビアのように、全く各学部独立した内容記述をもつ単行本的なものの方が優れている。ただこの分冊形式では「型デザイン、体裁やレイアウトの点で種々様々であるから、割一性と調和性が、必要とされるであろう」とラドックの指摘しているのは、大学の出版物である限り、尤もなことといえるであらう。ところが、これらの型とは異つて、「インフォーマ

「インフォメーション」といわれるパンフレットのようなものが、一九四三年頃から顕著に現われて来た。これらは「Bulletin of Information」(ジョーンズバーク)、「Circular of Information」(カリフォルニア)とか、また「General Information」, 「Brief Information」とか名付けられている。この型の出現は、勿論企画者達の新しい時代感覚によるのであろうけれども、またアメリカ大学の社会的境位に因由するところも多いとおもわれる。既に一九一一年のカネギー財団報告によると、「世界のいづれの国においても、アメリカの大学と同じ方法で、学生の募集されるところは恐らくない。他のいづれの文明国においても大学が学生を獲得しようと争っているところはない。他の何処においても大学教育の好餌と利益とが、若い人々の眼前にかくも広告されるところはない。アメリカの大学教育は生命保険や特許医薬とどこか似た方法で売られる商品である」といつているが、元来かかる傾向のある上に、一九四九年大学教育に関するトルーマン報告書発表を転期とする州立大学の目覚ましい発展と戦後のインフレーション等による大学教育財政の経済的危機の脅威とにさらされて、大学の学生募集政策のセールスマンシップが更に一段と強められて来たのであろう。殊に戦後パブリック・リレーションズ理論の擡頭につれて、これと結びつき、「アメリカ大学教育の、自由にしてダイナミックな社会に対する貢献」、具体的には「個々の大学における基本的教育政策やサーヴィス」、「を

もつと一般大衆に深く且つ広汎に亘つて理解を促進する」(一九五四年アメリカ教育週間における大学の標語)ことが、大学の重要な課題となつているため、従来の「大学一覽」(University Catalog)より、もっと表面的であつても、大学全般に亘つて総括的な理解を与え、一般大衆の関心を引くものとして「インフォメーション」型が採用され、重宝がられるようにな



昭和25年の「インフォメーション」

つた。「廻状」(Circular)という言葉がこの間の消息をよく物語っていると見えよう。従つて、内容も「カタログ」の成規類集的な重厚さが極力避けられる。例えば「詳細な課程説明、長いスタッフの名簿、称号学位や長たらしい沿革史」などが省略される。ラドックも高等学校に問い合わせたところ、これらの記述は

「省略されてよい」と答えたといつている。

かくして、「インフォメーション」をもつと大衆化する最も効果的な道具の一つとして、カメラで物語る方法」(「News and Publicity」 in «College Public Relations Quarterly», October, 1950)「いかに「写真物語」(picture stories)が着目され、「写真が入学志望学生のための案内書には好適である」と認められて、盛んに用いられるようになった。このため「学園生活の写真の使用されるのは当然であるが」、だからといって「あまりにも多く冷たい絵葉書のような建物写真を使う」(ibid)ことは出来るだけ避けるよう注意されなければならない。ラドックの報告でも、「大学の最も新しい建物だけで、恰もこれが全学園の典型であるかのような印象を与える」のは避けられたいという不平が多いといつている。が、兎も角一般に、「写真をもつと多く入れてほしいという要望が高く」なつて来ている。

最近数年間このような事情で、年鑑型よりインフォメーション型の「大学一覽」が、新旧や公私を問わず、全米の大学に採用され、普及するようになった。体裁も米国標準規格の六×九インチものもあれば、大型のや折畳みの一枚のものもあり、種々雑多で、写真のレイアウトも一般グラフィックになり、中には写真フラッシュを使用して、文字説明のないものもあらわれた。全くカネギー財団報告のいう通り、「商品見本」のような感を与えるものもある。が、最近になつて漸くこ

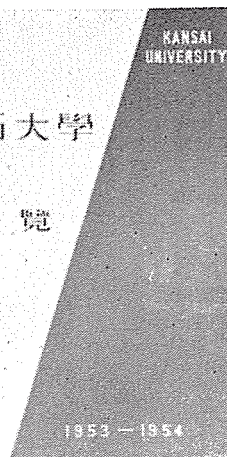
の競争も落着をみせ、どこかに大学らしい雰囲気と気品とを表現するデザインに精錬されて来たようにおもわれる。

かくのごとく八年前に、従来の“University Catalogue”から蟬脱して来た「大学一覧」の傾向は、「内容をもっと簡潔明瞭で論理的に配置し、絶対的に必要でない資料（例えば大学の運営や行政機構の説明、全教授や在学生名簿など）を省略し、また色刷や写真を豊富に使用して外観の体裁を改良する」(Radlock: ibid.) ことなどに向っている。殊にデザインや印刷にはもつと注意が払われる必要がある。また文章も難しい記述や通り言葉(heavy writing and jargon)を避けて、簡潔(concise writing)が尊ばれる。例えば、ペンシルヴァニア州立大学の如きは、「施設や科目の説明を削減し」、「課程の説明も単語(words)二十か二十五以内に縮め」ている。

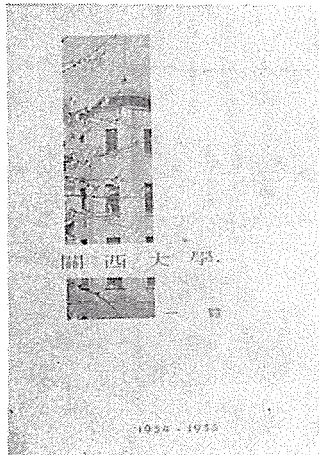
アメリカにおける「大学一覧」が、成規類集的な“University Catalog”からもつと一般向な“Information”に変貌して来たことは、アメリカ大学のアメリカ的成長とインダストリアリズムに始まるアメリカ的社会の発展とに應ずる、大学及び大学教育観の最近の変貌などに裏付けられるであらうが、これはまた教育行政学が官僚法規の学たるを蟬脱して教育行政の管理技術の学へと変貌して来ている事情にも由来するのであろう。

二

わが国でも、戦後アメリカ・システムの新制大学になつてから、アメリカ大学の研究が盛んになり、各種制度の輸入に伴つて「大学一覧」も年鑑型のものから



昭和 27 年度



昭和 28 年度

「インフォメーション」型に変貌して来た、というよりも寧ろ私立大学が学生募集のため、従来の一枚紙の「入学要項(または要覧)」をアメリカの「インフォメーション」型にする傾向のあらわれ始めたのが昭

和二十四、五年頃であつた。東京では法政、明治各大学など、京都では立命館大学が従来の「大学カタログ」型と「インフォメーション」型との混用様式で、アメリカに倣つて表紙裏に「学長のことば」を載せ、学則を入れた学部の説明や科目表などを記載し、ところどころに写真を配したものを出した。勿論、この当時アメリカでもこの混用様式の採用されているところもあつたが、特にわが国では、旧型より新型に移る過渡期にあつたので、編集なり写真のレイアウトなりが、どこか暗中模索しているような感をうけた。

このような事情にあつた時、本学が六×九インチの米国標準規格に似た寸法で、しかも大胆にもこれを横長に使用して、八頁の純然たる「インフォメーション」を出したのが、昭和二十五年のことであつた。當時としては全く破格の企画で、新奇の感を抱かしめ、「一覧」という名称を刷り込むことを許されなかつた程である(この時「大学一覧」と呼称することが出来ないため、私は「インフォメーション」という原語を用いた。これが今日でも残つて使用されているのである)。この「インフォメーション」は、体裁をキヤピタル大学に学び、学部説明の表題及びその特色の記述は、時恰も近畿地区一般教育講習会開催のため来学したコルゲート大学フレンチ博士の示唆に基づいて、コルゲート大学の「大学一覧」に範をとつたのである。すべて横組の絵アートとし、表紙はグリーン、黒、臙脂の三色刷で、満開の桜の梢から図書館を望む

写真を用い、左上にラテン語で関西大学、ローマ数字で創立年号を入れたマークを刷り込み、また本文の見出しは臙脂色で、例えば「法学部、政治学を学ぶには——法学部」、「研究のため図書を利用するには——図書館」というような表題を附けた。レイアウトも百数十種のアメ리카大学の「インフォメーション」から、その優れたものを比較検討して参考に供し、極めて大胆な手法を用いたが、四、五及び七頁のレイアウトは翌年度二三の他大学において採用された。

ラドックは「カクログの真に重要な最初の二、三頁に特別の考慮を払っている大学が非常に多い。(普通の大学一覽の伝統的な方法の代りに) 最もよいカクログは大学の特徴をあらわすため、一乃至数頁を使っている。これは重要なことで、われわれが初めてカクログを見る時、まずこの大学はどんな大学かを問うからである」(ibid)と云い、ノース・カロライナのダビッドソン大学では、「ダビッドソンの過去」、「ダビッドソンの現在」とか、「ダビッドソンの業績」とかという表題で、その特徴を述べているのを特筆している。これは一九五五年の時代感覚からみても優れているといえるのであらうが、本学では既に一九五〇年の五年前に出した前記「インフォメーション」において、大学の沿革を、「関西大学の過去」、「関西大学の現在」、「関西大学の将来」として記述している。勿論当時、この「インフォメーション」のほかに、一枚紙の「大学要覧」(入学案内)を出していた

ので、翌昭和二十六年には、この「大学要覧」に、他大学と同じような新、旧両型の混用様式が採用され、ために前記「インフォメーション」は彗星の如くあらわれて、消え去った。が、この体裁と横長型とは、



昭和29年度



昭和30年度

昭和二十六年より立命館大学の採用するところとなり、本学のものより稍々テヨロを長くした大型にし、最初は殆んど本学のものと同じレイアウトを用い、爾来昨年度まで同大学の「インフォメーション」として、全国に数多い「大学一覽」の中に、ユニ

ークな異色あるデザインを誇つて、踏襲されていた。兎も角、これは全国私立大学の、入学案内を兼ねた「大学一覽」が漸く「インフォメーション」型に改善されて来た今日からみれば、その嚆矢としての誇りを本学が享受してよいであらう。

昭和二十六年度の「大学一覽」は、前述の通り、従来の一枚紙の「入学要覧」に多数の写真を入れてB6判縦組十二頁のパンフレット型に改良され、古い「大学カクログ」型を脱皮して「インフォメーション」型に近づいた最初のもので、この型が今日まで踏襲されている。初めての試みであつたためか、レイアウトとしては写真を各頁の上に配列しただけで見ると見えないが、兎も角、ここに他の諸大学と、新旧混用様式を採つて、歩調を同じうするようになったのである。この型も翌年大阪商業大学の採用するところとなった。

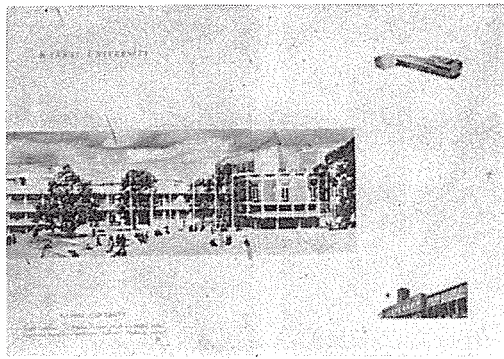
昭和二十七年年度の「大学一覽」は、前年度のB6判より、A5判、横組に改め、三十二頁とし、上質紙の代りに総アートをを用い、写真も更に多数の、しかもグラフィックなものが選ばれ、レイアウトも前年度に較べて目覚ましく進歩した。特に表紙には注意が払われ、抽象派絵画のような斜線を用い、白とグリーンとの配色にした絵画的なものであつた。ためにこのデザインはそのまま翌年度の「大阪府立大学一覽」の表紙に用いられ、今日も踏襲されている。

昭和二十八年度の「大学一覽」は、編集の内容、レイ

アウトは概ね前年度を踏襲しているが、写真は新しく取り換えられて、年々洗練され、進歩して来ているといつてよい。殊に表紙裏に満開の桜の枝振りにピントを合わせた第二(経書)学舎南側の横斜写真と、扉刷込み活字の配列のよさとの対照は、印刷専門家も讃める見事なものである。また、表紙デザインは、白地に、旧法文学舎のドームに満開の桜の梢を配したカット様の写真を、左上から全紙面の三分の二程に入れ、写真の下部を帯状に白くヌイてその中に「関西大学」と紺色で刷り上げたもので、白の「無」的背景という美的視覚構造(N. Hartmann: Aesthetic, 1953. SS. 98~101, 131, 191~192 参照)を充分に活用したデザインであつたけれども、「大学一覧」としては品はよいが弱過ぎて女学校の一覧のようだと評された。なお、表紙には流行のビニールを掛けたが、これも全国の大学において初めてである。

さらに、昭和二十九年年度の「大学一覧」は、編集の内容も、レイアウトも前年度を踏襲しているが、写真は前年度に較べて格段の差があり、カットも極めて大胆に駆使されている。また内容においては、前年度では「学部」のところに、各学部の名称だけを配列したに留つたものが、各学部を「大学部」の中に章節的に取扱つて、夫々その特色を述べ、また学科目配当表を、前年度のように各学部一括とせず、各学部ごとに配列したことは、大学の多様性(diversity)をあらわす意味において一段の進歩である。また本年度におい

て特筆すべきことは、見開き頁に千里山学園の空中写真を入れたことで、漸く「大学一覧」の体裁を完備したといえるであらう。なお、表紙は新築学舎の写真を全面に扱い、「ロッキンフェラー財団カタログ」の表紙に倣つて、赤、青、グリーン、黄、褐等の色刷ビニール掛けとしたことは、わが国では全国の「大学一覧」中最初の試みというべく、注目に値する。



英文「インフォメーション」の見返しと扉

兎も角、本学の「大学一覧」は「大学カタログ」型と「インフォメーション」型との混用様式を探り、稍々後者の方へ接近している形であるが、今日のアメリカ諸大学の中でも最も進歩した「インフォメーション」、例えば、ラドックが「デザイン、印刷、レイアウト及び印刷頁の美しさなどの点からみて他の追随

を許さない」と激賞するカーネギー工業大学の「大学一覧」などに較べると、印刷技術は暫く措いて(わが国の印刷はアメリカのそれに遠く及ばない)、デザインやレイアウトにおいて、更に改良されるよう研究と努力とを重ねずばなるまい。しかし、現在わが国の、この種新旧混用様式をとつた「大学一覧」の数多い中にあつて、常にユニークな特色ある「大学一覧」を世に示し、あるいは他をして範たらしめ、あるいは新奇な着想と手法とを用いて、他をリードしていることは、本学の誇りであるといつてよいであらう。

昭和三十一年六月になつて、初めて英文の「インフォメーション」が「KANSAI UNIVERSITY, Circular of Information, 1956-1957」と題して刊行された。これは昭和三十年年度の「インフォメーション」のレイアウトをそのまま用い、英文活字は10・5ポイントのヴェニス・ライト、用紙はアメリカ大学のものに倣つてP・H・O紙を使用した。また英文記述もアメリカの傾向に従つて極めて簡潔にした、例えば、「大学部」の説明中

“A student's whole education consists of both specialized education and general education.”

としただけで、専門教育と一般教育とについて

“the former being directed toward the mastering of a particular field while the latter is charged with the mission of helping him cultivate a sense of values, develop clear thinking, and understand

the social world in which the lives.”

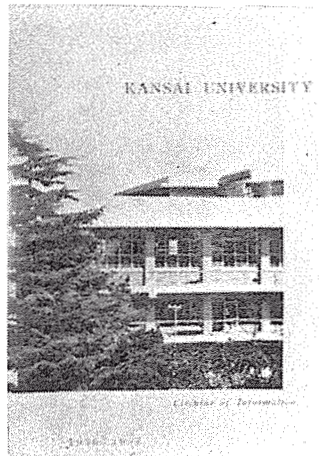
と解説する複文章を省略した如きである。最近漸く全国^の諸大学にて英文の「大学一覽」が企画され刊行されるようになって来たのに歩調を合わせるというよりも、むしろ、學術の交流、教授の在外留学、大学出版物の交換、外国学生の入学等いろいろな大学活動において、本学が外国諸大学と交渉する機会の順に激増して来たためである。されば、この英文「インフォメーション」は現在点における本学の隆運を示す一つの指標であるといつてよいであらう。

三

「大学一覽」の、アメリカにおける最近の傾向と、わが国ではその代表的なものとして本学の「大学一覽」の変遷とを対比させて、極く概観的に論述して来たが、最後に「大学一覽」出版の目的についてラドックが各大学へ調査した結論を引用して、彼のいう「一九六〇年の大学一覽」への一つの蓋然的展望を素描してみよう。

ラドックの報告(Radock: *ibid*)によると、旧い型の意図したような年鑑式「歴史的記録」(historical document)の考えは少くなつたが、なお「参考出版物」(reference publication)とか「学課程名簿」(directory of courses)とかと第一義的に考える大学も未だ若干残つてゐる。が、「ある有名な大学では、大学一覽の第一の目的は、学生募集のための主要

な道具として役立つべきだと報告している」通り、「大学カタログ」の縮少版的に、ますます入学志望学生のため特に企画して編集し、高等学校の少年少女に解り易い言葉で書かれた「インフォメーション」を出す大学が最近激増して来て、中にはこれを「高等学校のガイダンス担当者と学校図書館とに送つてゐる」ところもあり、ために入学者でこれが役に立つたというものが九〇パーセントもあつたと報ずる大学もある。



英文「インフォメーション」の表紙

また一方、この方向を強調し過ぎて二、三年前「漫画本の手法を用いた」ものもあらわれたとラドックもいつているが、私も二、三冊見たことがある。

最近になつて「大学一覽」に附加された一つの重要な目的は、前にも若干閑説した通り、大学を、また大学における研究と教育との現状を、たゞに入学を希望する学生のみならず、一般市民に広く知悉せしめ、社会における大学の役割と大学文化とへの理解を深める、所謂パブリック・リレーションズのため、「大学

一覽」を用いることである。勿論これは、擡頭して来たパブリック・リレーションズ理論を大学政策の中に移入援用したとみらるべきではなく、寧ろ最近におけるアメリカの大学及び大学教育論が基盤的背景となつて前者に結びついて行つたものであらうとおもわれる(Truman's Report, 1949; Harvard Report, 1950 及び本学学報第二七三・二七七両号掲載 W・H・カウリー「大学の学問・対・大学教育」参照)。この目的の達成には、旧い型の「大学カタログ」より新しい型の「インフォメーション」への移行を必然的たらしめるであらう。現にラドックも「あなたの大学一覽はパブリック・リレーションズの一つの真に重要な道具である」(*ibid*)といつてゐる。

かくして最近アメリカにおける「大学一覽」には、「覚醒が、あちらでもこちらでも起つてゐる」のであつて、ラドックはこれすらも「遅きに失した感がある」といつているが、兎も角この傾向のまま更に改良と工夫とが加えられ、「大学一覽」の新しい型を創造し發展して行くであらう。おそらくわが国の「大学一覽」もこれに影響されて進むであらう。

ただ旧い型から新しい型へ、また更に改良されたものの創造へと發展して行くにしても、「大学一覽」は、「大学を代表するものとして一般の人々がある」ものであるから、あくまで「大学の人格性と特色とを真に反映する、気品のある出版物でなければならない」(Radock: *ibid*)。(出版部職員)

学内報

学校法人関西大学顧問に

八氏推薦さる

永年に亘り本学の役員、顧問、協議員または評議員等の要職にあつて、本学の隆盛発展のため尽力された左の八氏は、この程学校法人関西大学寄附行為第三十三条に基づいて、理事会より顧問に推薦された。

推薦顧問（敬称略、イロハ順）

原田鹿太郎



明治二十二年十一月三日生
明治四十三年関大専
法卒

弁護士

理事、監事、顧問、協議員を歴任

現評議員

神宅賀壽恵



明治二十六年八月二十二日生
大正四年関大専法卒
弁護士

協議員、現評議員

神戸正雄



明治十年四月十九日生
明治三十三年東大法

卒

学士院会員、京大名誉教授

理事、協議員を歴任

武田宣英



明治三年一月二十日生
明治二十二年関西法
律学校卒

弁護士

理事、監事、顧問、協議員を歴任

武田蔵之助



明治十年十月三十日生
明治四十五年東大法
卒

弁護士

顧問、協議員を歴任、現評議員

内藤正剛



明治十六年二月二十八日生
明治三十七年関西法
律学校卒

弁護士

理事、監事、協議員を歴任、現評

議員

三好萬次



明治二十六年五月二十八日生
大正四年関大専法卒
近畿日鉄取締役会長

理事、協議員、校友会副会長を歴任

下条小野右衛門



明治二十一年九月十二日生
明治四十三年関大専
法卒

公証人

監事、顧問、協議員を歴任、現評

議員

島根大学と共同

隠岐島学術調査

島根大学と共同の隠岐島調査が昨年に引続き、本年は国語班の参加を得て七月十九日より行われた。本学よりの参加者は末永教授（考古学）・学生・大学院学生・末永教授以下十四名、外に卒業生結城氏の現地参加、高橋教授（民俗学）、井上教授（社会学）、横田教授（歴史学）有坂講師（歴史学）津川助手（歴史学）学生・大学院学生二宮君以下五名、外卒業生坂根氏の現地参加、吉永教授（国語学）土部講師（国語学）東郷助手（国語学）のメンバーに、島大より山本、山岡両教授、内藤講師の参加を得て次のような日程で島前・島後に亘つて調査が行われた。

七月十九日西郷町同日
考古学班は飯ノ山古墳突脚午後中村楓文文化遺跡に向ひ二十四日迄調査。国語班は東郷村において村民の民謡会話を録音。社会、民俗学班は西郷町高梨家文書調査。歴史学班は西郷町玉若神社、徳崎家保存の駅鈴等を見学。

七月二十日

社会、民俗、歴史、国語各班共五箇村水若神社において五箇村文書、隠岐縣動関係文書及五箇村民の言語等を調査す

七月二十一日

島後都万村、高田明神にて大明神縁起村方文書を調査（社、民、歴、国とも）

七月二十二日

西郷町高梨家文書調査

七月二十三日

島前黒木村別府にて美田、黒木村文書調査、同夜焼火山に登り焼火山神社の御神楽を見学し、焼火山社文書を調査

七月二十四日

国語学班帰阪、歴史学班市部笠置家文書調査、社会、民俗、歴史各班島後に再渡

七月二十五—二十七日

歴史、社会、民俗各班は東郷村釜の佐々木家文書調査

七月二十八日

考古学班は同日より三十日まで加茂村舟嶋古墳発掘調査

七月二十九日

社会、民俗、歴史各班は松江市島根県庁に至り県庁保存の文書調査を行い同日解散

八月一日—五日

考古学班は島後に残留し、国府原古墳を発掘調査

岐阜・古城郡山村集落の

家族制度調査

千里山法律学会では、七月二十二日から二十八日まで一週間岐阜県古城郡神岡町と上宝村地方に出張し、中谷敬寿・植田重正・木村健助各教授、大学院講師猪熊兼繁教授、春原源太郎理事、岩本慧・石尾芳久両助教授の指導により、大学院・学部学生四十数名が、神岡町では、山林関係・鉦山関係・産業関係等、上宝村地方では婚姻・相続・分家の家族関係及村落生活等の調査を行った。



強豪オハイオ州立大学を破る

七月十九日(木)西ノ宮球場に於て、日米親善野球として、関大対オハイオ大との間で行われた。

十二時三十分、和気霽々のうちにベナントの交換が行われ、十二時四十五分、本学先攻で試合開始。本学はエース村山投手が立上り不安で一点を与えたが三回から立なおし、九回迄十四・三振を奪う快投と、ナイン全員の闘志をもつてオハイオ州立大学を二対一で破り、日米親善野球の最後を飾った。

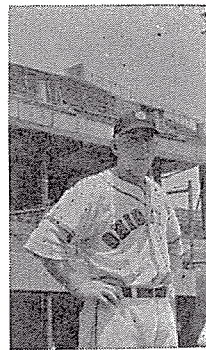
試合経過

関大	0	1	0	0	0	0	0	1	0
オハイオ大	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	1	2							

ベナントの交換
一回(関大)三者凡退
(オ大) R・シエー バンド、サードエラー、V・パークストル C・エリス三振 F・ハワード 三百九十フットに当る二塁打、三塁でタツチアウト、V・パークストル ホームイン(関大・オ大)
二回(関大) 香川四球、難波 レフトオーバー二塁打で二・三塁 西出 サードゴロでアウト、板橋のバンド、香川迎えられる。難波 二塁からホームへタツチアウト、村山 三振



オハイオ州大・関西大両軍ナイン



オ大B・マツクロー監督

(オ大) R・パークレー 四球、D・ケリー ショートゴロ 6-4-3 のゲツウアウト、R・シユナール センターフライ(関大・オ大)
三回(関大) 湯本 内野安打、盗塁でワンナウト、平井・森田凡退
(オ大) J・パーヴィス三振、J・ルテルキー ショート後方安打、R・シエー サードゴロ 5-4-3 のゲツウアウト(関大・オ大)
四回(関大) 上田 ビツチャゴロ、香川・難波 三振(オ大) 二者凡退、F・ハワード 三遊間安打、R・パークレー 三振(関大・オ大)

五回(関大) 西出 四球、橋野 バンド 西出二塁、村山 ライト前安打、ランナー・三塁、湯本 ビツチャフライ、平井 サードフライ(オ大) 三者三振(関大・オ大)
六回(関大) 三者凡退
(オ大) J・ルテルキー ビツチャフライ、二者三振(関大・オ大)
七回(関大) 難波 ショートゴロ、梅田 P・H・レフトオーバー二塁打、橋野 ビツチャゴロ、梅田 三盗アウト
(オ大) C・エリス セカンドフライ、F・ハワード センター前安打、R・パークレー 三振、D・ケリー 四球、W・ミズタニ P・H・サードフライ(関大・オ大)
八回(関大) 村山 四球、湯本 一・二塁間安打、平井 バンド二・三塁に送る、原田 バンド、村山 ホームにてタツチアウト、上田 レフト

前安打、湯本 ホームイン勝利の一打を
つ、原田 三盗タツチアウト
(オ大) 三者三振(関大・オ大)
九回(関大) 香川 ライト前ヒット、二盗アウト、難波 ショートゴロ、梅田 ショートゴロ
(オ大) R・シユナール 安打するも、後続
かづゲームセツト(関大・オ大)

関大	打	得	安	オ大	打	得	安
6 平	3	0	0	6 シ	4	0	1
8 森	3	0	0	8 パークストル	4	0	0
5 原上	1	0	0	5 エリス	4	0	3
2 3 香	4	0	1	9 ハワード	4	0	0
9 難	3	1	1	4 パークレー	2	0	0
5 西	4	0	1	3 ケーリー	2	0	0
8 梅	1	0	0	7 シユナール	1	0	0
7 橋	2	0	1	P.H. ミズタニ	0	0	0
1 村	2	0	1	7 ステイゲル	3	0	0
4 湯	2	0	1	2 パーヴィス	3	0	0
	3	1	2	1 ルテルキー	3	0	1
計	28	2	8	計	29	1	5

昭和三十一年八月三十日発行
関西大學學報 第二九四號
大阪市大淀区長柄中通二丁目二番地
編集兼 久井 忠 雄
発行人 大阪市北区川崎町三八
印刷所 株式会社 ナニワ印刷所
電話(35) 七二七一 七二七二 七二七三
電話(35) 七二八〇 七二八一 七二八二
発行所 大阪市大淀区長柄中通二丁目
関西大學學報局
電話(35) 二〇七二 二〇七三 二〇七四
振替 大阪二六七二二番



校友 パツチ

校

友

伊丹支部總會

六月二十四日(日)午後三時から伊丹市役所前「シスターグリル」に於て出席者



伊丹支部總會

事の会計報告、会員の自己紹介があつて役員の改選を行い左の通り決定した。尚、幹事は会長及び副会長の合議の上追つて委嘱することになった。

会長 深川 実
副会長 平井 正彦
同 山口 正春

東京支部主催岩崎学長壮行会

岩崎学長は八月末アムステルダムに於て開かれるユネスコ国際社会学会に出席

の為七月三日(金)羽田空港より出発されたが、出発に際し同空港ビル二階特別室Eルームに於て東京支部主催壮行会を開催した。梅田茂氏の司会により先づ中山支部長から饗けの辭が呈され、続いて学長より思いがけぬ歓送を受けた事に対する喜びの挨拶がのべられた。最後に梅田氏司会の発声で母校及び学長の万歳を三唱し壯途を祝した。

出席者

大島鎌吉 弓削多義郎 石田晶一 皆木鉄夫 梅田茂 吉田有宏 近藤竜雄 井戸崎好次 甲斐竜夫 本郷桂 井口一 鷲見孝義 平岡啓道 田中敏雄 鈴木康之 芦田定男 池下実夫 金子賢太郎 一山光男 安達竹七 植田八郎 中山幸市 中村簡吉 山口栄治郎

大阪国税局秀麗会支部結成大会

大阪国税局秀麗会は七月七日(土)午後三時から大阪税理士会館に於て、母校より矢野常務監事、校友会本部より長柄副会長を迎え、局職員を初め遠く各地方から税務署在職校友が馳せ参じ九十名参加の下に支部結成大会を開催。

南税務署の村上総務課長が司会者となり、熊本国税局長に榮転した吉田鹿之助氏が会長として挨拶を述べた後会務報告、支部結成の議事及会則を審議した後、左記の通り役員選挙を行つた。

会長及び名誉会長の就任の挨拶、長柄副会長より校友会の現況報告を兼ね支部結成の祝辞、大学側代表矢野常務監事より母校の現況報告があつた後、懇親会に

入り前川会長の支部結成誓いの乾杯に初まり和氣霽々の内に学歌合唱し散会した。

新役員

会長 前川太良右門(局直税法人課長)
副会長 如中竜二(局徴収部特別整理課長)
同 枝広樹(西淀川署徴収課長)
名誉会長 吉田鹿之助(熊本国税局長)
幹事 黒井肇(局) 荒井宏(局)
奥野辰三(局) 芝本正春(局)
村上健一(南) 徳永武(南)
山崎正五郎(中京) 平岡喜志雄(桑山)
淵崎邦男(連) 河田治(奈良)
岩崎清三(水) 上野束光(海南)
北村 正勝(南)

朝日生命千里山会例会

七月二十一日(土)午後五時炎暑の中上六浪速荘に於て例会を開催。当番幹事等を決定。

今年度の新卒業生十二名を加え和氣霽々裡に午後八時学歌を高唱し例会の幕を閉じた。

出席者

広田憲信 高橋実 田中勉 田中昭 中元善一 梅林薫 馬淵博直 荻坂昌之 橋本博史 松本文夫 酒井澄久 柏谷米次郎 田中俊二 金沢政夫 岸本喜代治 吉村政一 田口英明 北島四郎 吉村正喜 連水義一 小山克己

宝塚支部總會

七月廿六日(木)午後七時より宝塚ホテルで總會を開催。

支部長選任については谷

口隆佳氏を選出。前支部長である岡野衛士氏を顧問に推薦。その後小宴に入り午後十時散会。

出席者

本部側 安井校友課長
支部側 岡野衛士 大西義雄



尾崎正敏 柏木正一 金岡忠男 衣川信雄 古座成夫 志田肇 杉本信雄 谷口隆雄 田島龍司 富川健治 中西宏長 沢雅夫 鍋島友三郎 西村克彦 細見政剛 三宅啓正 和田一成

昭和31年 校友名簿

昭和28年度版を増補・改訂しました
同窓との親睦連絡に
ぜひ御利用下さい

— 収載人員二六、〇〇〇余名 —

申込先

關西大學校友課
大阪市大淀区長柄中通二丁目
振替大阪 一八七五番

B5判 六〇〇頁
実費頒価五〇〇円
(送料当方負担)

關西大學 法學論集 (近日刊行)

創立七十周年記念特輯

内 容

イエリネック国家学の分裂	岩 崎 卯 一
憲法裁判について	中 谷 敬 壽
人権宣言の民族主権	池 田 榮
国家保障論	堀 堅 士
—多元的平和—	
工業所有権侵害論に関する序章	内 田 修
—特に特許権の本質についての時味—	
錯誤理論の考察	植 田 重 正
原因において自由なる行為	中 義 勝
私法の解釈	和 田 豊 二
氏名の制度	木 村 健 助
—明治以降の変遷について—	
相続財産の取得	福 島 四 郎
古代ローマに於ける自力救済	明 石 三 郎
株券発行前の株式の譲渡	西 本 寛 一
アメリカ法における造船契約について	池 垣 定 太 郎
商法に於ける営利の概念	岩 本 慧
古記の解釈	石 尾 芳 久
二四〇頁・かがり巻表紙	
頒価 金三百五十円	

關西大學 經濟論集

創立七十周年記念特輯

労働の生産性測定の基本問題	高 木 秀 玄
人口論対象の方法論序説	市 原 亮 平
ロビンソンの労働需要論	三 谷 友 吉
ヴェブレンと教育経済学	澤 村 榮 治
J・S・ミルと社会主義	杉 原 四 郎
本邦古代著作考	錦 方 貞 亮
マニフアクチュア範疇について	矢 口 孝 次 郎
一九世紀イギリスにおける土地経営の典型	荒 井 政 治
一九世紀後半におけるアメリカ南部農村社会層の分化・分解	東 井 正 美
大戦以後の英國銀行業	森 川 太 郎
終戦十ヶ年の日本経済政策の動向	松 原 藤 由
日本造船業の成立と構造	越 後 和 典
港灣と工業	宇 田 米 夫

關西大學 商學論集

創立七十周年記念特輯

英國の小売商	山 崎 紀 男
海上売買におけるF・O・B条件について	賀 屋 俊 雄
株式の価値と価格の関係	今 西 庄 次 郎
觀光経済学の基礎概念	河 村 宣 介
会社経営の合理化と会社制度	板 橋 菊 松
経営参加と労使協力	鮫 江 城 夫
「販売主義」の理論的根拠について	植 野 郁 太
固定資産再評価の会計実務	酒 井 文 雄
資本剰余金の概念と分類	河 合 信 雄
戦前及び戦後におけるアメリカ経済の成長と発展	安 田 信 一
絶対的貧困化の形態	河 野 稔
G・D・H・コールの社会化論	寺 尾 晃 洋
戦後カツオ・マグロ漁業の実態と展望	柏 尾 昌 哉

關西大學 文學論集

創立七十周年記念特輯

哲 学	井 上 吉 次 郎
Community と Communica-tion と	岡 野 留 次 郎
サルトル哲学の出発点について	大 小 島 真 二
ハイデッガーに於ける「無」について	田 中 照
倫理現象と政治現象—人間学的—研究	秋 山 博 愛
史 学	魚 澄 悠 五 郎
ヘーゲルとその時代	高 橋 盛 孝
近世城下の成立	藤 本 勝 次
占地による前方後円墳の形式分類	三 上 壽 聡
猿の心臓本生蹟研究序説	横 田 健 一
サラセン帝国の駅運局長について	坂 田 正 一
武漢時代に於けるコミンテルンの中共指導	深 淵 久 孝
藤原鎌足伝研究序説	金子 又 兵 衛
文 学	吉 永 登
「玄峯集」の註釈書について	大 西 昭 男
「おはむ日をくも」	小 野 勇
「昨日今日の物語」と「醜態笑」	入 江 深
已然形にやの添うた形について	河 村 信 一
E・M・フォースター	
Everlyn Waugh の初期小説	
物語作家クラブ 進藤浩二郎	
「ハムレット」の第一独白 (一幕二場、二二九—五行)	
玉木 意志太年	
英國小説における假構について (序論)	
聖書の Jacket について	
J・S・エリオットの「四つの四重奏曲」の標題について	
D・H・ロレンスの自叙伝	
アーサー・伝説発展の概要	
アイザック・アシモフの「ロボット」の宿命	
国際語と自然科学術語	
蒙文韻類統会目錄	
石浜純太郎	
D.H. Lawrence の作品に用いられた英國中部地方の人名代名詞について	
ジョン・キーツの詩に於ける彼の色調	
星野信夫	
ハルシュタットの十六世紀フランス語にあらわれた「ラテン語」	
Schiller ドイツ語の史的考察	
福本喜之助	
自然科学	
精密インベント詩道法	
整数の関係	

關西大學出版部

目丁二通中柄長区淀大市阪大

所売發

學大西關

者行發

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十一年八月三十日発行(毎月一回三十日発行)

關西大學學報 第二九四號 八月號